

# 特集にあたって†

片山 清志\*

## 1. はじめに

サブプライムローンが破綻し米国発の金融危機が、世界に、そして実体経済に及ぼす影響が懸念されているが、情報技術(IT)がものづくりやサービスに広く浸透し、それを生かす SQC(統計的品質管理)が企業間競争を勝ち抜く切り札の一つと期待されている状況は変わらない。

本特集では、SQC が社内に普及・定着せず、成果が見えない、教育・活用・成果の PDCA サイクルが回らないとの声を聞くことが多いが、SQC が真に実務に役立つ考え方・ツールであり、続けるにはどうすればよいか、学々の立場および企業の立場から、SQC にかける熱き思いや経験・工夫、提言を識者に論じていただいた。

## 2. 本特集の経緯

1 昨年に品質管理学会として会員に Web によるアンケート調査を実施し、276 件の回答が寄せられたが、そのうち特に SQC に関する問題、取り組み、課題などについて述べている自由記述が 19 件あるが、それらの回答をまとめたのが図・1 である。

現状に対する不満や問題を抱えながらも、SQC 教育と活用推進、課題に向けた取り組みを期待し、す

に実践・成果を上げている企業や有識者が多いことがわかった。そこで、「実務に役立つ SQC の再普及」を取り上げ、大いに議論することにした。

## 3. 今号の特集の構成

構成は、SQC をめぐる問題や視点、課題について、まず学々の立場から 3 人の識者、続いて企業の立場から 5 人の実務家をお願いし、提言してもらうこととした。

### 3.1 学々の立場からの提言

#### ① 「実務に役立つ SQC の教育とそのステップアップ」

多くの企業指導の経験と統計解析を専門とする立場から、社内 SQC セミナーを運営する上で陥りがちな問題点とあるべき姿を取り上げ、社内に知識と実践経験を広く持つスターの存在や統計的方法を理解するための道標、SQC とタグチメソッドの融合の意義を詳細について論じている。

#### ② 「日本における統計教育の現状と課題」

大学教育における教育の質保証の観点から、統計リテラシーの社会からの要請が強い(統計関連科目は全国で 6,372 件)が、統計学の背景となる数理部分の教育よりも統計を活用する上での問題点を実践に即して教えることがより重視される。そこで、統計リテラシーの滋養と統計的思考力の養成が大学教育で主眼となっている現状と課題を述べる。

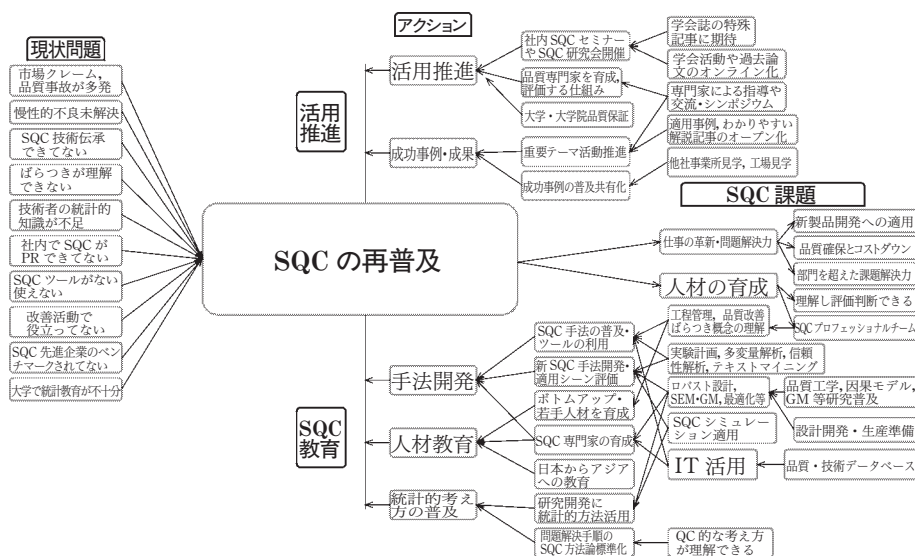
#### ③ 「経営プロフェッショナル教育の質保証一わが国ビジネススクールの試み」

経営プロフェッショナルの力量は問題・価値の発

†平成 20 年 12 月 26 日 受付

\* (株) 日本科学技術研修所 数理事業部

連絡先: 〒 151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 5-10-9(勤務先)



図・1 自由記述によるSQCの再普及マップ

開発した経緯と各ステップのポイント、実践事例などを紹介する。特に、要因解析の部分を現場の視点から体系化・詳細に手順化した考え方、品質改善ステップと最強チームの形成プロセスの統合について述べる。

④ 「実践的SQC活用から判明してきたこと」

見、意思決定、適用・実現の行動にあると定義するが、経営プロフェッショナルの力量を身につけるための統計教育のあり方と自らの実践的事例を述べ、大学院教育の質保証と、SQC経営プロフェッショナルを如何に養成すべきかを提言する。

3.2 企業の立場から事例紹介

① 「トヨタ自動車におけるSQC実践活用拡大への取り組み」

SQCは実学であり、理論よりもその活用方法が重要であるとの観点から実践重視の活動を推進している。特に、SQCの教育、活用、成果のサイクルを回してきた歩みと課題をこれまでの経緯と近年の特別活動を丁寧に取り上げ論じており、SQCの再普及を図る上での参考となる。また、社内の専門研究部会を設置して社内のインストラクターの質向上、事務系および品質工学の展開など先進的で興味深い。

② 「パナソニック(株)セミコンダクター社における実務で機能するSQC教育への改革」

SQC教育が実際の現場で効力を発揮すると実感するに至った経緯と実務に活用されるようになった要因、海外へのSQC教育などを主体的な立場で紹介している。自ら開発したQCシミュレーションや「業務で機能する」SQC教育の具体的な実践事例と工夫などが紹介される。

③ 「品質改善シナリオ「サザンフロー®」の構築と実務への適用」

慢性不良を撲滅するための品質改善シナリオを自ら

源流管理を推進、特に力を入れてきた開発設計への取り組みに焦点を絞り、SQCを推進するために有効な手法の取り組み・活用の仕方を紹介する。技術者の知見を生かすための実験計画の考え方、設計段階で適用するタグチメソッドやHOPEとの融合など、技術者、QCスタッフにとって役立つ実践的な知見が詰まっている。

⑤ 「統計解析パッケージの開発販売から見える実務に役立つSQC普及の現状と取り組み」

SQC専用パッケージを開発・普及してきた視点からSQCの再普及で必要な要点を紹介している。特に、顧客とのコラボレーションを強化することが、統計解析パッケージがSQCの再普及で果たす役割として大きいと述べており興味深い。

4. おわりに

実務に役立つSQCの再普及では、実践的なSQC教育と活用、成果をはじめからセットにして推進することが重要である。

また、統計的な深い知識と経験・技術、情熱を持つSQCプロフェッショナル(スター)や推進インストラクターの存在などがクローズアップされる。

SQC手法に関しては、設計開発や生産準備など源流管理の重要性が増すなかで、タグチメソッドとSQCの融合を提言する意見が数件見られることも特質に値する。